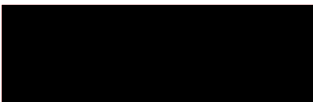


第1学年 国語科（書写）学習指導案



1 単 元 かん字の学しゅう

2 単元について

本学級の児童は、文字に対しての興味・関心が高く、正しく整った文字を書きたいという意欲にあふれている。普段の生活の中でも、自由帳に文字を書いて遊んだり、漢字学習を心待ちにしていたりするなど、文字や新しい学びへの関心が高まっている。書写の時間においては、「楽しい」「もっと書きたい」と意欲的な態度で学んだり、「友達のように書けるようになりたい」と向上心をもって練習に取り組んだりしている。しかし、毎日の連絡帳や他教科で学習したノートの内容を見ると、速く書こうとして文字が乱雑になったり、点画のはねやはらいなどに気を付けて丁寧に書くことができず、書写で学んだことが日常生活の中に十分生かされていないことがある。また、正しい鉛筆の持ち方や姿勢が十分に身に付いているとは言えない。

これまでに、合言葉を用いて、楽しみながら正しい鉛筆の持ち方や姿勢が身に付くよう指導してきた。その中で児童は、平仮名と片仮名について、始筆の位置や送筆（曲がり・折れ・折り返し・結び）、終筆（止め・はね・はらい）の書き方、書き順や外形に気を付けて書くことを学んできた。漢字については、すでに国語の時間にいくつか練習しているが、文字の形を覚えるのに精一杯で、点画を意識して書くまでには至っていない。特に終筆では、一度止めてから方向を変えて、力を抜きながらはねたりはらったりすることが難しい児童がいる。

本単元は、これまでの平仮名・片仮名学習を振り返りながら、漢字の送筆・終筆の書き方や外形、書き順、画の長さや方向を学習する。これらは、文字を正しく整えて書くための基本となる学習であるため、児童一人一人が習得できるようにしたい。本時は、『木』と『小』を教材文字として、終筆の「右はらい」と「はね」の書き方の違いを理解し、正しく書くことをめあてに、学習を進めていく。めあての達成に向けて、部分練習ができる練習用紙や重ね文字などを用意する。「右はらい」と「はね」の書き方の違いは、運筆のリズムを音声化して感覚的に理解できるようにしたい。また、水書用筆を使用し、運筆の力の入れ加減を楽しみながら体感することを通して、右はらいやはねの書き方を理解したり、適切に運筆する力を高めたりして、鉛筆で書くことにも生かせるようにしたい。そして、「高める」の場面では、自分が得た学びを友達とアドバイスし合い、それを参考にして練習する時間を、また、「確かめる」の場面では、めあてに沿った評価をし合う時間を設定するなど、対話的な活動を取り入れ、互いに上達の喜びを味わわせたい。

本校の研究副主題「主体的に学び、共に高め合う書写学習」を実現するための取組の中で、文字を書くことに興味・関心を持ち、自分が見つけた課題を解決するために練習方法を工夫して繰り返し練習したり、「確かめる」の場面では、自分や友達のよくなったところを見つけて伝え合おうとしたりするなど、意欲的に活動に取り組む児童が増えてきている。このように、めあてをもって書く楽しさを味わいながら、対話的な活動を通して、互いのよさに気付いたり、認め合ったりして、喜びや達成感を共有できるようにしたい。また、文字との出会いに大きな喜びを感じている1年生から、文字を大切に、日常生活の中でも書写学習で学んだことを積極的に生かそうとする態度を育てていきたい。

3 単元の目標

- (1) 漢字の送筆・終筆の書き方を理解し、外形や書き順、画の長さ、方向に気を付けて、正しく書くことができる。
- (2) 自分のめあてをもち、自分や友達のよさを見つげながら、進んで学習に取り組もうとする。

4 単元の評価規準

| | | |
|---|---------------|---|
| ア | 知識・技能 | 漢字の送筆・終筆の書き方を理解し、外形や書き順、画の長さ、方向に気を付けて、正しく書いている。 |
| イ | 主体的に学習に取り組む態度 | ①自分のめあてをもち、進んで学習に取り組もうとしている。 ②自分や友達のよさを見つげ、伝え合おうとしている。 |

5 単元の指導計画（14時間）

| | | | |
|-----|----------------------------|-----|---------------------|
| 第一次 | かくの おわりの かきかた・・・3時間（本時2／3） | 第四次 | かきじゅん・・・・・・・・・・2時間 |
| 第二次 | かくの とちゅうの かきかた・・・2時間 | 第五次 | かきぞめ・・・・・・・・・・3時間 |
| 第三次 | 文字の かたち・・・・・・・・・・2時間 | 第六次 | かくの ながさと ほうこう・・・2時間 |

6 本時の学習

(1) 目 標

- 右はらいやはねの書き方の違いに気を付けて、正しく書くことができる。
- 自分や友達のよさを見つけながら、進んで伝え合おうとしている。

(2) 展 開

| 過 程 | 児童の活動 | 教師の指導・支援 | 評価規準 (評価方法) |
|------------------|---|--|--|
| つ か む | 1 本時のめあてをつかむ。 | 1 自分のめあてをつかめるよう支援する。 ・運筆のリズムを音声化することで、右はらいとはねの書き方の違いに気付くようにする。 | |
| | <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">木</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">小</div> <div style="text-align: left;"> みぎはらいや はねに 気を付けて かこう。 ・「みぎはらい」 ・「はね」 </div> </div> | | |
| 高 め る | 2 右はらいやはねの書き方に気を付けて練習する。 ・練習方法を選び、練習する。 ・アドバイスを受けたことを参考に練習する。 | 2 めあてに合った練習ができるよう練習の場を設定する。 ・練習用紙 ・水書用紙 ・重ね文字 ・砂文字 | ア 右はらいのはねの書き方に気を付けて書いている。 (観察・練習用紙) |
| 確 か め る | 3 本時のまとめをする。 ・まとめ書きをする。 ・自己評価や相互評価をする。 | 3 めあてに沿ったまとめ書きや評価ができるようにする。 ・ナイスカードを使って、評価の観点を明確にし、自分や友達の評価ができるようにする。 | イ② 自分や友達のよさを見つけ、伝えようとしている。 (発言・観察) |
| 生 か す | 4 学習したことを別の文字に生かす。 | 4 右はらいやはねのある別の文字を見つけて、それらに気を付けて書こうとする意識をもつことができるようにする。 | |

(3) 評価及び指導

①「十分満足できる」と判断される状況

| | |
|----|---------------------------------|
| ア | 右はらいやはねの書き方について、よく理解し、正しく書いている。 |
| イ② | 自分や友達のよさを見つけ、進んで伝え合おうとしている。 |

②「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て）

| | |
|----|---|
| ア | 右はらいやはねの書き方を、動画を見て視覚的に確かめるよう声をかけたり、めあてに合った練習方法を助言したりする。 |
| イ② | 自分や友達をめあてを確認させ、互いのよさを見つけられるよう助言する。 |

